

見てみよう！歴史災害記録と旬のあいち

April 2020 vol.72

April						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

こうしょういん ◆ 光照院

所在地：半田市東本町

交通：JR 武豊線「半田」駅 北東 約 500m

昭和 19（1944）年の昭和東南海地震で、半田では中島飛行機山方工場を始めとした軍需工場において動員学徒が数多く犠牲となっています。犠牲者を慰霊した半田市内の碑や史跡は、これまでも何度か取り上げてきました。

半田市役所（vol.23,2016.3）には、この地が中島飛行機山方工場跡であったことを示し、亡くなった 153 名の方を慰霊するための「昭和東南海地震被災の地の碑」があります。市営北谷墓地（vol.17,2015.9）には、中島飛行機が犠牲者の追悼のために建てた慰霊塔から引き継がれる「殉職者諸精霊之碑」があります。雁宿公園（vol.8,2014.12）には、犠牲となった半田市内の 48 名の動員学徒を追悼する「追憶之碑」、県外からの動員者も含め、動員学徒 97 名を追悼した「殉難学徒之碑」、軍事工場での地震による犠牲者、昭和 20 年 7 月の空襲による犠牲者、動員中の労災死亡者の合計 432 名を慰霊した「半田・戦災犠牲者追悼平和祈念碑」が建てられています。

動員中に犠牲になった半田市内の学徒たちの慰霊のために、同級生らによって建立された雁宿公園の追憶之碑には、これと同時に作られた常滑焼の「おほなみ観音」という十一面観音像が存在します。おほなみ観音は、常滑市の陶製仏像作家・柴山清風により造られたもので、中島飛行機山方工場のあった場所の土



追憶之碑



おほなみ観音

を混ぜ合わせて作られた高さ約 60cm の観音像は、追憶之碑とともに犠牲者を慰霊するものとして、光照院に納められました（現在は通常は非公開）。追憶之碑も、もとは光照院の本堂の横に建てられていましたが、平成 6（1994）年に現在の地の雁宿公園に移されています。

ところで、柴山清風は、高さ 20cm ほどの救世観音・夢殿観音像を、千体を目指して造り、全国を無償で配布して回った人物で、東大寺からの受領書も残されています。そのほかにも、熱海市の「興亜観音」（高さ 3.3m）、常滑市にあった「護国観音」（高さ 2m）、さらには出征兵士やその家族の求めにより制作された高さ 3cm 程度の「弾除け観音」など、数多くの作品を世に残しています。

過去に取り上げたエピソードにおいても、清風の作品が登場しています。vol.59（2019.3）では、愛知用水の調整池のひとつ、知多市の佐布里池を紹介しましたが、工事犠牲者の供養と豊かな水を祈念して制作された「水利観音」が、佐布里池そばの愛知用水神社の観音堂に納められています。vol.39（2017.7）で取り上げた弥富市の鍋田神社の「伊勢湾台風殉難者慰霊観音」も同じく清風の手によるもので、おほなみ観音と同様、犠牲者ゆかりの地の土を混ぜて制作されています。

三重県鳥羽市の三ツ島には、海上で働く人たちの安全祈願のために清風の手により建てられた「一葉観音」があります。この一葉観音は、高さ 2.4m にも及ぶ大物陶彫ですが、昭和東南海地震、三河地震、伊勢湾台風などの災害にも耐え、いまなお現存しています。



◆ 災害にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い（二度と被害を繰り返さないように、など）が込められています。碑や史跡の前では、災害が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。

◆ 光照院の周辺には…

● 半田市役所（東南海地震被災の地の碑）

所在地：半田市東洋町

交通：JR 武豊線「半田」駅 東 約 700m

現在の半田市役所の場所は、昭和東南海地震で多くの犠牲者を出した中島飛行機山方工場のあった場所です。この碑は、半田市役所の敷地西側に



建てられています。正面には「東南海地震被災の地」、側面には「中島飛行機山方工場跡」、「一九四四・一・二・七 学徒従業員など犠牲者一五三人」と刻まれています。

● 雁宿公園

所在地：半田市借宿町 交通：名鉄河和線「知多半田」駅 北西 約 800m

雁宿公園には、昭和東南海地震で亡くなった動員学徒らを追悼する「半田・戦災犠牲者追悼平和記念碑（左）」「殉難学徒之碑（右）」「追憶之碑（表面）」が建てられています。

◆ 詳細な地図は『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ はんだ蔵のまち端午の節句

はんだ蔵のまち端午の節句は、4月からゴールデンウィークにかけて半田運河を中心とした蔵のまちエリアで催されるイベントで、半田を代表する文化施設が参画しています。

イベントの期間は施設によって異なりますが、半田赤レンガ建物のドイツ祭りやGWファミリーフェスティバル、鉄道資料館の公開、ミツカンミュージアムの自由見学、國盛酒の文化館のワークショップ、新美南吉記念館での南吉じゃんぼかるたなど、さまざまな催しが行われます。



半田商工会議所 HP より

期間中は半田運河にこいのぼりが掲げられ、イベントの盛り上がり華を添えます。

あいちの農産物

愛知早生ふきは、明治時代に東海市で発見され、地元の庄



愛知県園芸農産課 HP より

屋が自己栽培に成功してから、周辺地域に広まりました。知多半島は一大産地となっており、全国シェアの約40%を占め、生産の大半を東海市と知多市が担っています。

旬は10月から5月にかけてで、香りが高く葉柄の伸びが早く、生育が旺盛で収量も多いことが特長です。

● ブレイクタイム ●

♪ 國盛 酒の文化館

國盛 酒の文化館は、日本酒の知識と理解を深めるとともに、省力化、機械化で使われなくなった道具や、先人たちの技などの貴重な文化遺産の伝承を目的としたお酒の博物館です。

重厚な黒塗りの壁と白い漆喰窓をもつ建物は、昭和東南海地震を経験しながら大きな被害を免れており、200年にわたって酒造りが行われた酒蔵をそのまま活かし、当時を再現した見学スペースとなっています。

館内では、お酒についての知識が学べるほか、利き酒もできます。



◆ この地域の災害に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆ 県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会・名古屋大学減災連携研究センター 令和2年4月）